## (6) **秀吉との対戦**

**秀吉軍との対戦** 土佐の七守護の中でも最も所領の少なかった長 \*京教部氏は、元親のはたらきで、四国全土にまで勢力をのばすこと ができました。

元親軍は、各地ではげしく戦いましたが、力つき、とうとうまけてしまいました。四国を統一したその年、元親は、秀吉に敗れたのです。

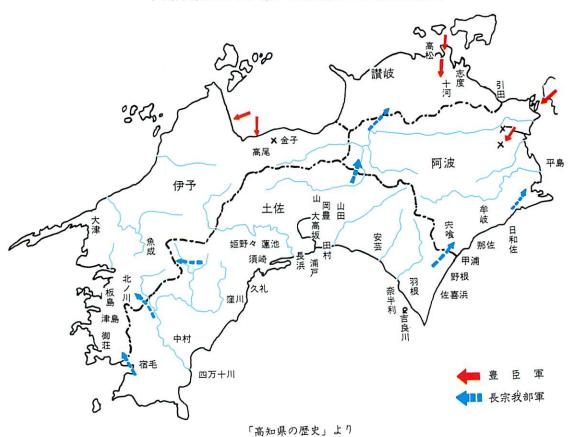
元親軍がまけた一つの原因は、戦力のちがいでした。豊臣方の兵士は兵農分離を終えて訓練をつんだ専門の武士団でした。一方、元親軍の兵士は、農作業のいそがしい時期になれば、番兵を戦場に残し、自分の田畑にもどらねばならない農民兵、一領具足たちでした。

長い年月、戦いにあけくれてきた一領具足たちは、つかれはて、 ぶり 武具も豊臣軍とは比較にならないほどそまつなものでした。

『南海治乱記』という書物によると、「秀吉の軍はりっぱで、武具や馬具は光かがやき、馬も堂々としており、武士たちはまことにいかめしい。」また、「長宗我部軍は、おそまつな木のあぶみをつけた土佐の馬にのり、兵士のよろいはきれて、麻糸でつづり合わせてあり、国に兵糧がとぼしく、長い戦争はできない」と記されてあります。

また、元親に征服された阿波・讃岐・伊予の兵士たちは、元親の ために戦う意欲が少なかったことも敗戦につながりました。 戦いに敗れ、秀吉にこうふくした元親でしたが、さいわいなことに土佐の国は、自分の領地として、おさめることを許されました。

また。 長宗我部氏の四国統一と秀吉の四国征討関係図



カ州出兵 1585年元親は秀吉の命令で、九州豊後に出陣しまし た。中国・四国を平定した秀吉は、九州の島津氏をたおそうとして いたのです。

島津軍と元親たちの軍は、戸次川 (大分県、今の大野川) ではげ しく戦いました。このとき、元親は、最愛の長男信親を失ってしま いました。信親は、知恵もあり家来たちを大切にし、だれもが元親 のあとをりっぱについでくれると期待していました。元親たちも、 命からがら、伊予 (愛媛県) の日振島へ退きました。元親は日振島 で、秀吉のさしずを待ったのです。岡豊へは帰らず、使いを岡豊へ 出しました。

信親の死をなげき悲しみ、元親はその後人が変わったように、す っかり元気をなくしてしまいました。

戦死した長男信親の墓は、高知市長浜の雪蹊寺にあります。

信親の墓(高知市長浜雪蹊寺)

元親の墓(高知市長浜天甫寺山)





長宗我部家の滅亡 元親は、1591年ごろ浦戸に城をきずき、秀 は、 1591年ごろ浦戸に城をきずき、秀 ました。また 2 度にわたる 朝 鮮出兵にも加わり、秀吉のため に活やくをしました。

秀吉の死後、元親も病がちになり、1599年、京都の伏見でついに 61歳でなくなりました。

波瀾にみちた生涯を終えた元親の墓は、高知市長浜の天甫寺山の中腹にあります。

元親の長男、信親の死後、長宗我部家では、四男盛親があとをつぐことになりました。

秀吉の死後、豊臣家と徳川家の権力争いが強まり、1600年、関ケ原の戦いがおこりました。盛親は、豊臣方に味方をしましたが、豊臣方は敗れ、盛親たちは土佐へにげ帰りました。

徳川家康は、盛親の謝罪は受けつけず、とうとう土佐の国をとり

初陣の像(若宮八幡宮)

初件07/家(石占八幅占) 56

あげてしまいました。

土佐の国は、遠州掛川の ・中でますらかずとは ・東山内一豊にあたえられ、盛 親は、たって京にの後も、 できまった。盛親は、この後も、 大阪への陣・夏の陣で豊臣の についただは、盛親を処刑することが、のでたた。 できまったのでは、盛親の代でたえての にかったがは、盛親の代でたえての にかったがは、盛親の代でたえての にかったがは、盛親の代でたえての にかったがは、。 のしまったのです。



若宮八幡宮(高知市長浜)

文化人元親 元親は、強い武将でありましたが、和歌や連歌をたしなみ、茶道にも通じた文化人でもありました。都から、和歌・書道などの先生を招いてさかんにしたり、南学の講義を受けて、儒学を学びました。元親は、このような教育を受ける機会を自分ばかりでなく、家臣の子弟たちにも与え、岡豊文化の花をさかせました。高知県の文化財のなかには、元親の時代に修築されたものが残されています。

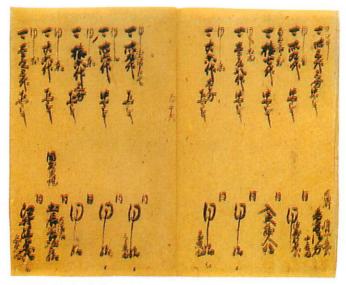
南国市国分の国分寺・高知市一宮の土佐神社・高知市長浜の若宮 は5まんでう 八幡宮などが有名です。

若宮八幡宮は、元親が出陣にあたり、戦勝を祈願した神社です。 そのため神社の建築を出陣の形にかたどり、とんぼがとび出す形の 出とんぼ式の建築になっています。 一方、土佐神社の方は、戦争から凱旋して帰陣するようすをちょうどとんぼが本殿にむかってとびこむ形となる、入りとんぼ式の建築になっています。

元親は、家臣を統制する能力や国を統治する能力にもすぐれていました。「長宗我部元親百か条」という掟がきや「長宗我部地検帳」によって、元親の国のおさめかたを知ることができます。

「長宗我部地検帳」は、全部で368冊あり、県の重要文化財に指定されています。検地は、秀吉の命令によって、元親がおこなったもので、すべての田畑の面積を調べ、台帳に記録しました。長宗我部家にかわって入国した山内家もこの地検帳をひきついで、土佐をおさめました。

この地検帳には、年貢の3分の2を領主や一領具足たちが取り、3分の1が農民のとり分だったことが記されています。平地の少ない土佐では、農民たちの負担も大きかったのです。土佐の出来人、長宗我部元親は、郷土の生んだ勇ましい武将ですが、元親をささえてはたらいた農民たちのことも忘れてはならないでしょう。



長宗我部地検帳 (高知県立図書館蔵)



## トピック 岡豊城跡 国の史跡に



岡豊小学校の西に岡豊山があります。県立歴史民俗資料館がある ので、行ったことがある人もいるかもしれませんね。

この岡豊山には、長宗我部氏の居城であった岡豊城がありました。 岡豊城は、元親が土佐を統一し、四国統一を目指す間の拠点となっ ていました。また、元親が豊臣秀吉に敗れ、大高坂城 (現在の高知 城の場所にありました。) に移るまでの居城でした。

2008年(平成20年)7月28日、この岡豊城跡の一部が国の史跡 に指定されました。

## 岡豊城歴史公園マップ



ています。)

詰(ここに2層以上の建物があったと考えられ 伝厩跡曲輪(長さ30m、幅17mの楕円形で、本 城を守る出城であったとされています。)





高知県立歴史民俗資料館ホームページ (http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/)